40718 下野新聞

運動時の負傷者対応学ぶ

獨協医大病院が初講習

国体控え準備着々

「スポーツ医学センター」を備えるなどスポーツ医療に力を入れる獨協医大病院は17日、運動中の負傷者に対し病院到着前に施す処置を学ぶ「PHICIS（ファイシス）コース」を初めて開いた。医師や看護師、トレーナーら19人が、迅速な初期対応への学びを深めた。18日も実施する。

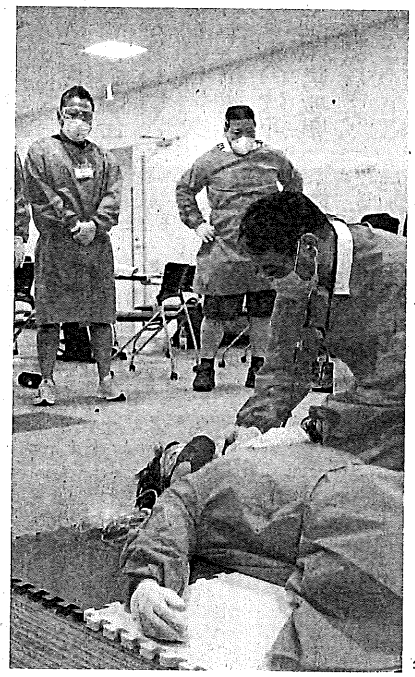
ファイシスはスポーツ現場で適切な医療を提供するためのプログラムで、英国で始まった。一般向けのレベル1、医療従事者向けのレベル2、3の計3段階のコースがある。

同病院は2021年に同センターを設立。ファイシスの普及に取り組む一般社団法人「PHICIS JAPAN」と提携し、北関東で初めて講習会を開いた。

今回はレベル2のコースを実施した。同法人の山田睦雄代表理事や、理事で獨協医大の荻野雅宏准教授らが講師を務めた。

スポーツ現場で倒れ、意識がもうろうとした選手がいる想定で、参加者は初期対応の流れを繰り返し確認した。同病院の整形外科医瓜田淳さん(46)は「基本を身につけることが非常に重要と感じた」と振り返った。

今後も定期的に講習会を開く。荻野准教授は、10月に開催される国体も踏まえ「スポーツ現場で適切な処置ができる人が増えるよう、県内でも力を入れて取り組みたい」と話した。（東山聡志）



参加者らを前にけが人への処置を披露する荻野准教授（右端）＝17日午前、壬生町北小林